

古代の匠たちに拍手を

「この巻では「割る」「磨く」「切る」「溶かす」「掘る」という言葉をキーワードにいにしえの匠たちの技を、現代にのみがえらせる紹介をしてみました。しかし実際にはとても言葉では伝えることができない、熟練した職人だけが知ることのできる複雑な技や秘伝の技もあります。なかには、いかに現代のハイテク技術を駆使しても、とうてい真似のできない技もあるようです。

表紙の写真で炉に砂鉄を入れているたたら村下の木原明さんは、当初、温度計や風力計を使って科学的な操業を試みました。しかし、師匠の村下、安部由蔵さん（故人）のような製品はなかなかできなかったそうです。たたらは、経験と勘の世界。現代の科学の力をもってしてもなかなか解明できない奥義があるのです。この話の中に、古代の匠たちの技を理解するヒントがあるような気がします。

この本を読んだみなさんは、ぜひともゆかりの地を訪ねて、古代の匠たちの仕事の跡や作品にふれてみてください。きつと本を読むだけではわからなかった、古代の匠たちの息吹を感じることができるといいでしょう。そのことによって島根の匠たちが全国に誇れる技を持っていたことや島根の豊かな資源が匠たちの技を支えていたことがわかると思います。

また、現在でもこうした匠たちの技を受け継ぎ、伝えている人、現代風にアレンジして郷土の名産にしている人もいます。郷土に古くからある技術や資源を現代に生かすための工夫を知れば、今まで何気なく見ていた名産品も違った目で見ることができるともいれませんか。

重要無形民俗文化財の指定を受けている三隅町の石州半紙技術者会など、島根の資源を生かした工芸技術はほかにもあります。後継者を育てることは容易ではないようですが、その伝統的な技術を伝えることの大切さを再認識し、応援してください。

ほとんどの技術が手仕事から、コンピュータを駆使したハイテク技術に移行した現在でさえも、その基本は「人」であることに変わりはありません。「人」が「人」のために技を磨き、優れた製品を生み出すことにはうらやまを、ぜひとも自分の目で確かめてみてください。

取材に協力いただいた方の言葉から



勝部勝義さん
(勝部石材店) 八東郡宍道町

出雲考古学研究会の皆様さんと一緒に、宍道町にある下の空古墳の復元作業をやりました。来待石は比較的加工しやすい石ですが、現代のような道具がない時代にあって、古代の人がどのように石を切り出し、運び、加工したのか、不思議な気がしました。また、石棺が非常にバランスよく組み合わせてあるのにも感心しました。



八幡昭三さん
(八幡黒曜石店) 隠岐郡五箇村

黒曜石は非常によく切れます。仕事をすると切傷が絶えません。しかし、不思議と黒曜石でできた傷は治りが早いのです。また、黒曜石を採掘するのにもたいへんな仕事です。急な斜面を大きな原石のまま運んでいます。



板谷忠義さん
(いずもものつ細工伝承館)
八東郡玉湯町

勾玉の美しい形を出すため、遺跡から出土した勾玉を見せてもらったりして研究しましたが、自分の思うような形を作り出すためには、長い年月がかかりました。いろいろ便利な機械はできましたが、それでも根気のある仕事です。出雲人は粘り強いと言われますが、この粘り強さは勾玉作りにあっているかもしれませんね。

*もっと知りたい人のために

黒曜石に関するもの

森浩一

『図説日本の古代1 海を渡った人びと』中央公論社 一九八九

前島昌基

『日本の古代遺跡20島根』保育社 一九八五

島根県立八雲立つ風土記の丘研究紀要『島根の考古学と自然科学1』

島根県立八雲立つ風土記の丘 一九八九

玉作りに関するもの

玉湯町立出雲玉作資料館『玉作りのQ&A』玉湯町立出雲玉作資料館 一九九四

玉湯町教育委員会『出雲玉作りガイド』玉湯町教育委員会 一九九一

寺村光晴『古代玉作形成史の研究』吉川弘文館 一九八〇

石野博信他『古墳時代の研究5 生産と流通』雄山閣 一九九一

金閣忍他編『弥生文化の研究8 祭と墓の装い』雄山閣 一九八七

森浩一編『古代王権と玉の謎』新人物往来社 一九九一

水野祐『勾玉』学生社 一九九二

石に関するもの

宍道町ふるさと文庫 来待石の採石と加工 一九九〇

出雲石造文化の源流をたずねて 一九九〇

宍道町教育委員会『宍道町ふるさと文庫10 石と人』一九九五

伊藤菊之輔『島根の石造美術』一九七三

出雲考古学研究会『古代の出雲を考える6 石棺式石室の研究』一九八七

鉄に関するもの

大橋周治

『岩波グラフィックス13 鉄の文明』岩波書店 一九八三

飯田賢一

『日本鉄鋼技術史論』三一書房 一九七三

鈴木卓夫

『たたら製鉄と日本刀の科学』雄山閣 一九九〇

大竹三郎

『鉄をつくる(出雲のたたら)』大日本図書 一九八一

山内登貴夫

『和鋼風土記』角川書店 一九七五

飯田賢一

『鉄の語る日本の歴史(上・下)』そしえて 一九七六

広島大学文学部考古学研究室編

『中国地方製鉄遺跡の研究』溪水社 一九九三

『考古学ジャーナル313 特集製鉄遺跡』ニューサイエンス社 一九八九

東京工業大学製鉄史研究会『古代日本の鉄と社会』平凡社 一九八二

島根県教育委員会『菅谷鐘』島根県教育委員会 一九六八

銀に関するもの

大國晴雄

『石見銀山歴史散歩』石見地域デザイン計画研究会 一九九二

石村積久

『石見銀山(上・下)』石見銀山資料館 一九八一

内藤正中

『山陰の風土と歴史』山川出版社 一九七六

石村勝郎

『石見銀山秘話』大田市立図書館 一九七九